

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 222

2023・11・29

山暮れて 紅葉の朱を 奪ひけり

— 蕪村 —

今年最後の会報をお届けします。
コロナ禍明け、とでもいうように、
人が集まるいろいろな催しが
再開された年でした。
TOTOMO にとっても、
連続講座やお宝展・学習会を開催。
記憶に残る年となりました。
ご協力ありがとうございました。



○ CONTENTS ○

	PAGE
☆ 「図書館を語ろう！ & TOTOMO のお宝展」を終えて	…1
☆ 「図書館を語ろう！ & TOTOMO のお宝展」に参加して	…2
☆ 市街地整備課との勉強会実施と要望書への回答について	…3
☆ 図書館イベント「新しい図書館を想像する」参加報告	…4
☆ 謎の会合?! —市街地整備課ヒアリング報告—	…5
☆ 市史編さん事業と今後の課題 鎌倉市中央図書館 浅見佳子	…6
☆ 松坡先生をめぐる人々 15 住友寛一・君子 袴田潤一	…7
☆ フィールドワーク「第2回間島夫妻ゆかりの地を巡る」	…8
☆ 西鎌倉ぽけおはなし会報告／図書館総合展報告	…9
☆ F☆L実行委員会報告／銀幕情報／2023年度総会のお知らせ	…10
☆ ポラ協報告・協働部会報告／活動日誌	…11
☆ 事務局から	…12

「図書館を語ろう！ & TOTOMO のお宝展」を終えて

(10月21日 於：鎌倉市福祉センター)

長すぎた夏が漸く落ち着き、読書・芸術の秋を迎えた青天の一日、これまで当会に寄贈いただいたお宝を愛でながら、改めて「望ましい未来の図書館」について語りあう会をもちたいと標記イベントを企画しました。

今回は、特別ゲストとして鎌倉市議会議員の納所輝次さんをお迎えしました。納所議員は、直前に行われた9月市議会において「子どもたちの読書活動の推進と学校図書館のあり方について(1)学校図書館の充実について(2)子どもの読書活動推進のあり方について」をテーマに質問されました。録画映像を傍聴してとても勉強になりましたので、関係者の皆さんとぜひ共有したいとの思いが募っての集いでした。

当日は、現役の学校司書さんや元司書教諭の方、おはなしボランティアさん、図書館長や館長補佐など子どもたちの読書活動推進に尽力されている方が多く参加され、よりよい環境整備のために何が求められるのか？率直



会場に展示された TOTOMO の「お宝」の一部

な意見交換が行われました。公共図書館との連携や子ども読書活動支援センターの重要性、学校司書や司書教諭など専門的な「人」の配置の大切さ、基本的資料の購入予算への配慮など、何れも待ったなしの具体的な提案を重く受け止めたいと思います。

子どもたちは読書環境の整備について自ら声を上げることはできません。当会はこれからも関係者の皆さんと手を携えてよりよい学校図書館づくりに向けて尽力したいと思います。末筆ながら、快くゲストとして参加してくださいました納所議員に深く感謝申し上げます。

(阿曾)

「図書館を語ろう！&TOTOMOのお宝展」に参加して

10月21日、「図書館を語ろう！&TOTOMO お宝展」に参加させていただきました。9月の議会質問で、学校図書館をとりあげてくださった鎌倉市議の納所議員がゲストとして招かれました。会場には、鎌倉市図書館司書、学校司書、市民の方々など、20名ほどの方が集まりました。初めに納所議員から学校図書館の大切さ、現状について様々な例やご自身の体験を挙げてお話いただきました。



「図書館を語ろう！」
(鎌倉市福祉センター会議室)

2020年の読書世論調査(毎日新聞社)によると、51.5%の人が月に一冊も本を読まず、本の楽しみ方を知らないうちに大人になっている。一方で、読書は大切と回答している人は99.8%いる。学校図書館の果たす役割は大切。子どもが本にふれる機会をふやし、読書の楽しみを子どもたちに経験してもらいたい。また、学校図書館は読書センターとしてだけではなく情報センター、学習センターとしての役割もあり、それに比べられるだけの本があるだろうか。蔵書を増やす予算については、地方交付税に学校資料費として予算が付くが、鎌倉市は地方交付税不交付団体なので、自前で用意しなければならない。

以上、簡単に要約させていただきましたが、学校図書館について、議会で発信してくださったことを、大変心強く感じました。100%近い方が読書は大切だと回答しているデータには勇気づけられました。その後、意見交換の時間が設けられ、学校司書からは、現場の声がたくさん挙がりました。

- ・図書費として学校に予算をいただいているが、となりの藤沢市と比べて少ない。
- ・図書予算は、クラス数により額が決まるので学校差がある。小さい学校は大きい学校と比べて予算が半分のところもある。昨年改訂された調べ学習用の百科事典は、12万円程で、購入を見送った学校が数校ある。
- ・蔵書数の中には、古い本が含まれている学校もある。使いやすい図書館にするためにも廃棄・更新を進めたいが、廃棄を反対されることもある。
- ・小学校では授業時数の増加により、朝読書の時間が減ってしまった学校がある。
- ・中学校では、学校司書の勤務時間が月に30時間と少なく、授業にかかわることや、放課後の開館をすることができないのが現状。
- ・学校司書は、資格を求められているにもかかわらず賃金が安すぎる。(時給1,117円)
- ・鎌倉市立図書館の学習パック・読み物パックの利用が増えている。(平成23年度から始まった学校貸し出しは令和4年度には12000冊を超え、増え続けていると図書館員の方からお話がありました。)

学校では、「主体的、対話的で、深い学び」を目指し日々の授業を進めています。学校図書館の果たす役割は、ますます大切になっています。学校図書館が、児童生徒にとって魅力を感じる場であること、先生方にとって、活用しやすい場であることが大切です。また、学校図書館は、「子どもたちの居場所」という役割も担っています。この会に参加し、改めて、声を挙げることの大切さに気づかされました。多くの方に学校図書館に関心を持っていただきたいと感じています。(谷原菜摘)

※この催しは、タウンニュース2023年11月10日号に取材記事が掲載されましたので参照下さい
[ととも鎌倉 学校図書館の課題語る 予算や非正規雇用の悩みも | 鎌倉 | タウンニュース \(townnews.co.jp\)](https://townnews.co.jp/)

市街地整備課との勉強会実施と要望書への回答について

11月21日に市街地整備課庁舎担当の職員と勉強会を行いました。話し合いのテーマは第15回本庁舎等整備委員会（10月25日開催）に出された資料についてです。市のホームページにも掲載されていて、これを見ると本庁舎移転後の場所につくられる施設の全体像がかなり見えてきたと感じられます。そこで市街地整備課に説明会を求めたところ、ざっくばらんに意見交換できる勉強会としてやりましょうという返事をいただきました。2時間にわたる討議内容をすべて紹介する紙幅はないので、論点を絞って報告します。[第15回整備委員会資料 \(city.kamakura.kanagawa.jp\)](http://city.kamakura.kanagawa.jp)

まず、現庁舎を改修するのではなく新築にする可能性が高く、地上2階、地下1階建てで公的施設の総面積は第13回本庁舎等整備委員会で示された規模8200㎡に変更はないということでした。平面図（添付資料①）を見ると中央図書館は全ての階にスペースを持っているのですが、それぞれのスペースの面積や開架書架、閲覧室、新聞雑誌コーナーなどがどう配置されているかはまだ決まっていないという説明でした。また、これを見ると民間エリアがかなり広くとられていると感じます。“ふみくら”の図では野外にあるイメージでしたが、施設内にしっかり組み込まれており、1階の民間エリアは最も人の出入の多い箇所であり、2階や地下1階にも広いスペースが取られていて、どういう業者が入るのか不明ですが、文化の香りをにじませたい“ふみくら”のイメージに反する印象です。この点について問うと面積はともかく「ここは図書館が中心の場所で民間エリアは余剰部分と位置付けている」という答えでした。それならば図書館エリアの必要な面積の確保を優先すべきと考えます。

次に、この建物を誰が設計、施工、管理運営するのかという「事業手法」について4つのパターンが示され、そのうち「パターン①を最有力候補とする」（添付資料②）としています。このパターンは図書館と行政窓口は市が運営し、その他の施設は「SPC（特別目的会社）」が管理運営する（建物の設計、施工も請け負う）というものです。一つの建物の中に運営主体が二つに分かれることになります。

「提供サービス」については網羅的によく把握されているのですが、「ひらく」「むすぶ」「知恵うむ」などの機能別に書かれていて、図書館、学習センターなどが実際にどのように分担、連携してサービスするのかわかりません。管理運営主体も分かれていることと併せて問題は生じないのかと聞いたところ、全体を統括する組織体を考える必要があるということでした。「図書館が中心」ならば全体の統括についても「図書館を中心」に考えてはどうでしょうか。

今回はこのような有益な機会を設けていただき感謝しますが、平面図やサービスの具体的な展開の仕方などについても案が固まってきたら決定する前に意見交換する場をつくってほしいと思いますし、全体的にもこういう順序で内容を決めていくというロードマップを作り、市民にも示し、話し合いができることを要望します。

順番が逆になりましたが、8月30日に提出した市長、教育長宛ての要望書への回答が10月26日に届きましたので簡単に報告します。要望書に添付した提言書を計画策定の参考資料にしてほしいという要望については「大変参考になる」ので、本庁舎等整備委員会でも「議論の参考として活用」するとしている点は評価できますが、専門家や市民が参加する場の設定に関する要望への回答は納得できるものではありませんでした。今号の記事（P4, P5）にあるようにワークショップやヒアリングの場を設けていますが、場当たりの実施の印象はぬぐえないし、「図書館協議会でも議論」しているというのですが、諮問はされておらず、毎回傍聴していますが「議論」されているとは見受けられません。逆に言う「諮問」なしに「議論」の成立は無理と思います。（回答書：添付資料③）

（和田）

図書館イベント『みなさんのアイデアをお聞かせください

～新しい図書館を想像する～』に参加して

(10月17日 於：鎌倉市中央図書館 多目的室)

鎌倉市では、深沢に計画している新庁舎に深沢図書館を市役所所在地に中央図書館の整備を考えています。新中央図書館、新深沢図書館についてのアイデアをとということで、「みなさんのアイデアをお聞かせください『新しい図書館を想像する』」と名付けられた図書館主催のイベントが3回開催されました。参加者数は第1回6名 第2回4名 第3回17名と報告されています。私は10月17日(火)に行われた3回目の会に参加しました。



「新しい図書館を想像する」第3回 集められたアイデア用紙がボードに張り出されていきます。
(鎌倉市図書館 HP より～画像の一部～)

最初に主催者から、こんな機能があったらいいなあ、と思う3つの軸(①子供のための機能 ②バリアフリーの対応 ③その他便利な機能)について意見、アイデアを書いてほしいと、参加者全員に用紙20枚が配られました。

参加者各々が意見、アイデアを用紙に書き、その後用紙が貼り出され、読み上げられました。13時30分～15時という限られた時間の大半が割かれ、参加者

の意見交換の時間が15分と聞き、愕然としました。参加者の真剣な話し合いで、15分延び30分にはなりました。何のために参加者を募ったのか主旨が解らず、用紙に書かれたものを集め、その意見について参加者で話し合いがされずでは、貴重な時間を参加者と主催者側とで共有できず、アイデアや意見を書いた用紙が必要だけということになりかねないのではないかと思います。

市民からのアイデア、意見をというのであれば、各図書館に目立つように大きく提示し、多くの図書館利用者に記入してもらえるように用紙を置き、回収ボックスを設置し集める方法でよかったのではないかと思います。

一番大切だと思う「参加者で話し合う時間」が少なかったことはとても残念です。

現時点では器の検討のみで、これから中身は検討していくということでした。中身を検討していく段階で、図書館の専門家に入って頂きたい、市民と一緒に図書館をつくっていくという思いを持ってほしいと、強く思います。

これから先、何十年と使われていく図書館、次世代に遺していくに値する図書館。

市役所所在地に図書館を中心とした施設をとの方針であれば、入れ物の中に中身を当てはめるのではなく、中身を考え、入れ物を考える必要があるのではないかと思います。

会に参加された方々のご意見、アイデアは鎌倉市中央図書館ホームページお知らせに載っています。是非ご覧になって頂きたいと思います。(古矢)

鎌倉市中央図書館ホームページ：[お知らせ \(city.kamakura.kanagawa.jp\)](http://city.kamakura.kanagawa.jp)



お詫びと訂正

会報221号(9/27発行)の添付資料③のうち、多摩市立中央図書館の総工費66億円は、誤りでした。11月15日に見学した際に確かめたところ、総工費は約45億円とのことでした。お詫びして訂正いたします。

謎の会合?!—市街地整備課ヒアリング報告—

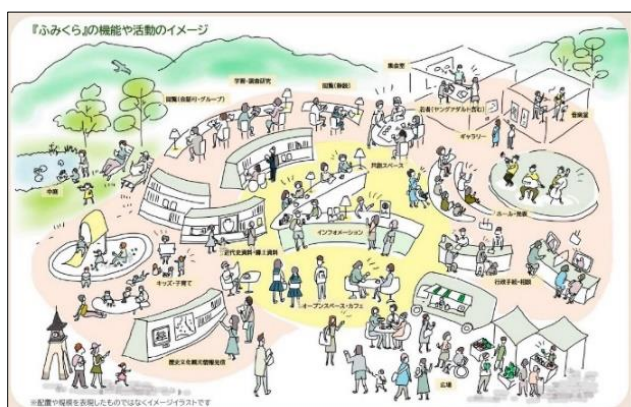
(10月26日(木) 於：鎌倉市中央図書館 多目的室)

10月26日、各団体2名…図書館職員からメモを渡されたのは実施日より1週間ほど前。聞けば市街地整備課からの依頼で、会場は中央図書館、図書館関連団体に声をかけているということのようでした。事前情報がほとんどないまま当日を迎えて会場に赴くと、出席者はかまくら女性史の会3名、玉縄古文書の会1名、古文書の会1名、かまくらりんどうの会(認知症を支える家族の会)1名、TOTOMO2名の計8名でした。この他、市街地整備課職員1名とARG[※]社員2名が座に就き、外側に2列に並べられた机には前列に市街地整備課職員3名、後列に図書館職員3名が座っていました。遅れて比留間副市長もお出でになりましたがご挨拶はなく、終了前に退席されました。

開始時刻となるとすぐに、趣旨も知らされないまま参加した出席者全員が疑問を投げかけた為に多少の混乱をきたしました。予定の時刻から30分ほど遅れて、ようやくヒアリングが始まりました。「先ず、皆さんが日頃どのような活動をしているか、どのように図書館を使っているのかを話してください」と言われて驚きました。3年前にオンラインで行われたヒアリングの際も同じように始め、意見交換は殆どできないまま時間切れで終了してしまった経験があるからです。ARGさんのマニュアル通りなのかもしれませんが、いつも同じような質問を投げかけられ、こちらも同じ主張を繰り返し、その間に手の届かないところで計画が進んでいくような気がして、頭がくらくらしてきました。

鎌倉市は市内各所でワークショップやイベントを実施し、先ごろ中間とりまとめを発表しました。

[鎌倉市／鎌倉市市庁舎現在地利活用基本計画中間取りまとめ \(city.kamakura.kanagawa.jp\)](http://city.kamakura.kanagawa.jp)



左はそのイメージ図です。今回の資料はこれだけでした。これに対し、出席者からは様々な意見が出されました。一どこの街にでもあてはまるようなイメージ図では意味がない。鎌倉の歴史を大切にしてほしい。行政にしかできないことをすべき。これを機に文書館を作してほしい。図書館はバックヤードも大切。資料の整理のためにも場所が必要。障害者サービスにも力を入れてほしい、自ら情報や知識を得られることで人生が豊かになる。など、いずれも真摯に受け止めてほしいものばかりです。民間施設を併設する理由については市負担額を少なくすることがあげられました。これに対し、市役所周辺にある店舗への民業圧迫になるのでは?との問いかけや、障害者が運営に携わるカフェ等も検討してほしい、という意見がありました。

会の終わりに当会和田副代表が、一方的に市民の意見を聞くだけでなく対話の機会を作してほしい、と要望しました。加えて私も、これまでに私たちはパブリックコメントを出し、ワークショップ等にも参加して意見を言ってきた。先日は提言書も作成して市長、教育長に提出しているが常に参考にします、としか言われていない。せめてどの部分が受け入れる余地があり、何が対応できないのかを知りたい、と発言しましたが、お答えに窮しているようでした。当初は1時間程度を予定していたようですが到底足りず、30分以上延長して散会となりました。

会の終わりに当会和田副代表が、一方的に市民の意見を聞くだけでなく対話の機会を作してほしい、と要望しました。加えて私も、これまでに私たちはパブリックコメントを出し、ワークショップ等にも参加して意見を言ってきた。先日は提言書も作成して市長、教育長に提出しているが常に参考にします、としか言われていない。せめてどの部分が受け入れる余地があり、何が対応できないのかを知りたい、と発言しましたが、お答えに窮しているようでした。当初は1時間程度を予定していたようですが到底足りず、30分以上延長して散会となりました。

今日の集まりもまた聞き置いただけの会とならないことを切に望んでいます。

(黒瀬)

※ARG：本事業の策定支援業務を受託しているアカデミック・リソース・ガイド(株)の略称

当会は、昨年11月25日、要望書「鎌倉市制100周年記念事業として『新 鎌倉市史』を編纂することについて（要望）」を30賛同団体とともに市長に提出し、市史編さんを進めていく旨の回答を頂きました。併せて2月市議会への陳情も行い、総員の挙手をもって採択されました。しかし、その後も市史編さんの動きは一向に見えてきません。一方で、新庁舎移転や跡地利用庁舎の計画は、市史への配慮なく進んでいるようです。以上の経過を踏まえ、市史編さん事業の進捗状況についてぜひ把握したくこの度執筆をお願いしました。市史編さんの機運が高まり、作業が加速することを願っています。

（市史編さんに関する詳細は、会報216号～221号をご覧ください）



市史編さん事業と今後の課題

鎌倉市中央図書館 浅見佳子

鎌倉市中央図書館には第一期鎌倉市史、第二期鎌倉市史編さんの原史料となった記録の写しが製本されて577冊あります。他にも、草稿類の記録が残されており、膨大な編さん事業の一端を知ることができます。昭和59年（1984年）当時の事業計画にも、「長期に、また莫大な経費を投入して収集したこれら史料の散いつを防ぐとともに、後の研究者の用に供するため整理製本の上、一括して保存管理が必要である。」という記載があり、身が引き締まる思いを感じています。

鎌倉市史第一期は市制二十周年記念事業として昭和31年～34年に刊行、第二期は鎌倉幕府開府800年、併せて市制四十五周年記念事業として昭和59年～平成6年に刊行されました。それに続く今後の節目となる市制100周年は令和21年（2039年）です。それまでの刊行を目指すとなると、どのくらいのスピード感やスケジュールですすめていったらよいのか、過去の記録をひもときながら、先人の苦労をしのびつつ、関係課と協力し話し合いを進めているところです。

近年自治体史編さんに取り組まれている県内自治体への聞き取り調査も行いました。どの自治体も長期の事業として取り組まれており、編さん途中での担当の所管替えや執筆陣や計画の変更等、事業遂行の上での苦労も伺えました。資料収集を進めながら、継続的に市史研究や市史だより等に成果をまとめ、市民にお知らせしていくことで、自治体史編さんとその後の史料継承にもつなげている事例も多く見られました。

聞き取り調査に際し、神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会をとりまとめている神奈川県立公文書館に事前に調査項目等についてご相談したところ、令和5年度（2023年度）内に神奈川県内全自治体への同様の調査を実施予定と伺うことができました。その後、調査結果をまとめた一覧が本年10月に発表さ



鎌倉市中央図書館近代史収蔵庫に収められた
鎌倉市史資料 577 巻

れ、自治体史編さんだけでなく、公文書に関する所管や歴史的公文書の扱い等、各自治体の記録文書に対する施策の全体像を見ることができました。

現在、鎌倉市の図書館では、保存年限が満了した行政文書から、歴史的公文書として残す文書の選別作業を10年来、継続して行っています。歴史的価値と行政文書としての必要性の両方の視点で見ることを心がけています。市史編さんのその先も見据えて、鎌倉市の歴史をいかに残して伝えていくか100年後の市民に役立てるよう考えながら進めていきたいと思っています。

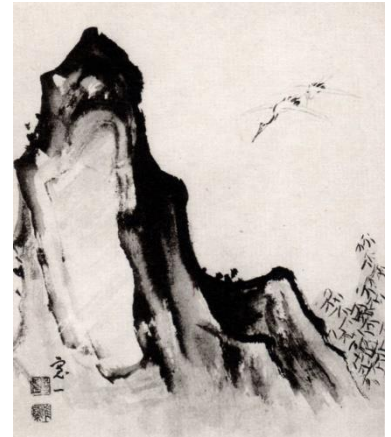
昭和6(1931)年、阪正臣(1855~1931)の喜寿の祝いに鎌倉在住の文化人16名(「鎌山」同人)が書画を持ち寄って一帖として贈ることにした(贈った)という記録があります。鎌倉市中央図書館の松坡文庫付属資料の中の前稿(昭和6年2月の趣意書)です。16人のうち、間島小筠・片野晃陽・大橋康邦・海上寿子についてはこの連載で既に紹介しました。今回はその趣意書に名を連ねている住友無為庵とその妻君子を紹介します。

住友無為庵、本名寛一は住友友純(1865~1926 第15代住友吉左衛門 号は春翠)の長男として大阪に生まれました。病弱であったことや、事業には関心を示さなかったこともあって、住友家当主を継がず、宗教・美術・文芸を愉しむ生活を送りました。鎌倉二階堂の自宅無為庵に京都から伊東陶山を招いて窯を設け、作陶に励んだことも知られ、自らの作品を収録した『無為庵製陶図録』(1928)には様々なスタイルの自作陶器が収録されています(この図録、題簽を有島生馬が書き、阪正臣が歌を寄せています)。また、美術品蒐集家として知られ、岸田劉生作品やとりわけ中国絵画のコレクションは優れたもので、今日、泉屋博古館の館蔵品として折々に公開されています。

寛一の妻君子は明治21(1888)年に栃木の小平常四郎の五女として生まれ、住友保丸の養女となり、大正9(1920)年に寛一と結婚しました(寛一との間に四男二女をもうける)。玉華と号し、日本画(墨画)を趣味としていました。

ところで、寛一・君子と松坡先生との直接的な交友を示す資料は残念ながらありません。寛一が鎌倉に移り住んだ大正14(1925)年以降に共通の友人を介して交友が始まったことは推察できます。一つは絵画です。連載の第12回で紹介した春田源之丞の喜寿の祝いの『巖帖』に寛一・君子は墨画を寄せています。寛一は美術愛好家として伊東陶山

に作陶を学んでいます。妻とともに墨画を鎌山同人の関谷雲崖か大橋康邦に学んでいた可能性もあります。もう一つは財界人としての寛一の交友です。鎌山同人には間島小筠



『巖帖』に寄せられた住友寛一の墨画

(愛子 間島弟彦夫人)・土岐象外(横)・春田緑嶺(時子 春田源之丞夫人)・米山桜後(米吉か)といった美術・文芸を愛好する財界人(或いはその夫人)がいました。寛一は住友家当主を継がなかったものの、住友財閥傘下の企業の役員を務めていたことから、鎌山の財界人との交友もあったことでしょう。更には瑞泉寺の松堂和尚との関係も考えられます。松坡先生は松堂和尚との交友があり、瑞泉寺をしばしば訪ねて詩を詠み、詩軸を寄贈しています。一方、寛一は松堂和尚による徧界一覽亭再建事業の復興願主であり、一覽亭脇に「一覽亭復興碑」を建て、復興記念に『夢窓国師偈頌及歌集』を出版しています。こうした、多くの文化人・財界人の複雑に絡まった人脈の中で、寛一と松坡先生の交友も生まれ、寛一・君子の二人は鎌山同人に名を連ねることになったのだと思われます。

寛一は芸術に対する優れた鑑識眼をもって、鎌山同人の活動を俯瞰し、支援していたのではないのでしょうか。勿論、パトロネージュ的役割も担っていたに相違なく、鎌倉の文化は芸術を愛好するこのような多くの人たちによって築かれていたのです。

フィールドワーク「第2回間島夫妻ゆかりの地を巡る」 ～間島冬道・間島弟彦父子のぼちぼちツアー～

旌徳の会では、間島弟彦・愛子夫妻の事績を鎌倉市民の方々に周知していただけるよう、研鑽する活動を続けています。その一環として昨年は、築地外国人居留地跡をたずね間島弟彦が6・7年過ごした所である明石町散策を行いました。今年は第2弾として「間島冬道・間島弟彦父子のぼちぼちツアー」を企画しました。

10月4日水曜日11時に日暮里駅に集合、あいにく小雨の中、ツアーがスタートしました。

まず、谷中の墓地で、父・冬道のお参りをし、墓誌に刻まれた間島弟彦の事蹟を調べるための情報収集を行いました。

築地塀のある町並みを進み、「夕焼けだんだん」をとおり、谷中銀座商店街で昼食後、地下鉄千代田線で、千駄木駅から新御茶ノ水へ向かいました。

新御茶ノ水を出て聖橋をわたり「湯島聖堂（江戸時代中期、江戸幕府5代将軍・徳川綱吉が上野にあった孔子廟をこの場に移した建物）」を見学後、教育熱心で議論好きであった弟彦が向学心のある青年を援助するために作った「南甲寮」の名残の発見のため神田駿河台の街歩きを行いました。発見には至りませんでした。「南甲寮」の北側にあったニコライ堂の見学を行い、再び千代田線に乗り「青山墓地」へ向かい、弟彦のお参りと情報収集を行い「ぼちぼちツアー」はお開きとなりました。

（平塚優 記）



冬道の墓所



ついでに
築地塀のある町並み



ニコライ堂



弟彦の墓所

【旌徳の会の今後の予定】

第25回かまくら市民活動フェスティバル

- 月日：2023年12月2日(土)・3日(日)
- 会場：鎌倉生涯学習センター（きらら鎌倉）
- 今年のテーマ：
「いつものコトをもしものトキに」を
テーマに、防災力の向上やもしもの時の
行動につなげるフェスティバルです。
- 旌徳の会はパネル展示で参加します。
- パネルタイトル：
「間島弟彦・間島愛子夫妻と関東大震災」
～鎌倉の復興に多大なる貢献～

ファンタスティック☆ライブラリー112

- 月日：2024年2月4日(日)・5日(月)
- 会場：鎌倉市中央図書館 多目的室
- パネル展示：2月4日(日)・5日(月)
「間島弟彦・間島愛子夫妻の寄贈本と
ゆかりの人々」
- 講演会：2月5日(月)14時～16時
「鎌倉市中央図書館所蔵
間島愛子氏寄贈資料について」
講師：中田孝信氏
(鎌倉市中央図書館 会計年度任用職員)

西鎌倉ぽっけおはなし会報告

(9月29日(金) 10時～11時30分 於：西鎌みんなの家)



猛暑がようやく落ち着いた9月の末に西鎌倉子育てサロンぽっけでおはなし会を行いました。参加して下さった親子は8組。生後9か月から1歳10か月のお子さんとママさんでした。

おはなし会では、参加するお子さんの年齢や開催する季節に合わせたプログラムを考えます。今回は、カボチャやドングリが登場するわらべ歌や絵本、また、その日の晩は満月でしたのでお月様が出てくる絵本や紙芝居を入れたプログラムにしました。

小さいお子さんばかりでしたが、とてもよく聞いてくれました。最後に「ゆりかごのうた」をママさんたちと一緒に歌ったときは、どの子どもも静かにうっとりとした表情になったのが印象的でした。みんなママの抱っこと歌声が大好きなのだなと思いました。

ぽっけのおはなし会、次は3月に予定しています。春を感じるおはなしやわらべ歌を用意して伺いたいと思います。ひこうせんからは、大山・黒瀬・福田・星・杉崎が参加しました。(杉崎)

☆プログラム☆

1. わらべうた「どてかぼちゃ」
2. 絵本『ぼうしとつたら』tupera tupera 作
3. 絵本『どんぐりとんぼろりん』武鹿悦子 作 柿本幸造 絵
4. わらべうた「どんぐりころちゃん」
5. 絵本『おだんごやま』やぎゅうげんいちろう 作
6. 紙芝居『つきよのヤマネ』千世まゆ子 脚本 ひろかわさえこ 絵
7. 絵本・歌『ゆりかごのうた』北原白秋 詩 高見八重子 絵

図書館総合展参加報告

(10月24日(火) 於：パシフィコ横浜)

4年ぶりの会場開催(オンラインと併用)となった図書館総合展に参加しました。今回の展示会場は2階のアネックスホールでしたが、これまでより手狭なこともあり、人がひしめき合っている印象でした。

イベントのひとつとして開催された神奈川県図書館協会の職員研修会では、ユニバーサル絵本ライブラリーUniLeaf(ユニリーフ)代表の大下さんが講師を依頼されました。題して「共に体験と感動を ～ユニバーサル絵本ライブラリーUniLeaf(ユニリーフ)の活動について」。日頃有志としてその活動をお手伝いしている杉崎、黒瀬両名はアシスタントを務めました。

ユニバーサル絵本の説明やこの活動に至った経緯、さらに今取り組んでいる歴史的建造物のブロンズ模型の話に、どなたも熱心に聞き入っていました。聴講されたのは各地の図書館員から一般の方まで。100名定員の会議室は開始時こそ余裕があったものの、ふと気づくといっぱいになっていました。講演後の質問タイムにはたくさんの方が上がり、点字タイプライターや模型にさわる体験も大人気でした。



読書バリアフリー法成立から4年。図書館での障害者サービスはまだ道半ばですが、この講演会には鎌倉市図書館の障害者サービス担当司書さんも参加されていて、嬉しく思いました。(黒瀬)

ファンタスティック★ライブラリー実行委員会報告

(10 月 12 日 (木) 於：中央圖書館多目的室)

10月12日（木）14:00～15:30に3団体5名、図書館員4名の参加により実行委員会が開かれました。
2024年2月4日（日）、5日（月）に行われるファンタスティック☆ライブラリーの各団体の展示、イベントのスケジュール、使用予定備品（パネルやガラスケース等）について打ち合わせを行いました。

【展示・イベントの予定】

◎かまくら女性史の会：展示「かまくらの保育Ⅲ」、ギャラリートーク、講演会「戦中戦後の幼児教育と鎌倉」。

◎松坡文庫研究会：講演会「松坡先生と鎌倉の寺社」、松坡文庫のお宝展、ギャラリートーク、動画（YouTube）。

©TOTOMO :

- (1) 「とともにのお宝展」と題して額装した原画と寄贈本の展示。100 周年の本の展示。
- (2) 「おはなしひこうせん」は児童コーナーで世界のお話等のパネル展示とおはなし会。
- (3) 「間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会」はパネル展示と寄贈本の展示、「鎌倉市中央図書館所蔵 間島愛子氏寄贈資料について」の講演会。

◎図書館：図書館振興基金で購入したお宝展示、FABLABO とのコラボ、読書会。朗読については未定。

尚、展示物の搬入は前日の3日、設営や飾りつけについては一部前日に可能となりそうです。

広報活動として広報かまくら2月号(11月中旬に図書館へ展示内容の原稿提出)、鎌倉萌(発行日12/19)、鎌倉朝日、タウンニュース、とともに会報等に掲載を予定しています。

さらに、来年度は図書館のシステム更新予定の為、2024 年 12 月下旬から 2025 年 3 月まで多目的室が使用できないので開催時期または会場を変更する必要があり、昨年度のように深沢学習センターを考えているとの事でした。

次回 令和6年1月18日(木) 14:00~15:00

TOTOMO からは阿曾（松坡文庫研究会兼務）阿部、杉崎、水岡が参加しました。

(水固)

かまくら銀幕上映会のお知らせ（主催：ドリーム・アーツ（03-5969-8081） 於：鎌倉美術館小ホール

2024 1/12 (金)『パリタクシー』 1/26 (金)『ノートルダム 炎の大聖堂』

◎前売り券:1000 円(当日券:1300 円)* 受付で「田邊さんから聞いた」と仰っていただければ前売り料金でご覧いただけます。

◎上映時間①11:00～ ②14:00～ ☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館(0467-48-5500)へお問い合わせください



2023 年度 TOTOMO 会員総会のお知らせ

日時：2024年1月28日（日）10:00～12:00

場所：鎌倉市中央図書館3階多目的室

※年に一度の会員総会です。皆様のご参加をお待ちしております。ご連絡はTOTOMO事務局まで。



ボランティア連絡協議会報告

(10月12日、19日、11月9日 於：福祉センター)

10月19日の委員会では、社協から9月の福祉まつりと10月の赤い羽根共同募金の報告と協力へのお礼に続き、来年1月13日(土)に開催する講演会のお知らせがありました。(右ご案内をご覧ください)

続いて各グループからも活動内容の紹介や、イベントの案内があり、お互いの理解を深めました。

委員会終了後はボラ協マルシェと銘打ち、9月の福祉まつりで売り切れなかった食器類を並べました。福祉まつり当日はスタッフとして忙しく立ち働いていてゆっくりお買い物できなかった方が多いため、喜んでたくさん買ってくださいました。ボラ協マルシェはこれからも開催します。

11月の役員会では、2月の交流会の内容について話し合いました。2020年度以降1月の新年会は中止とし、昨年度からは2月委員会を交流会として活動発表や物販を行っています。今年度はさらに盛り上げ、珈琲野郎さんによるコーヒーサービスやおはなしひろくせんのミニおはなし会なども案にあがっています。詳細は次号でお知らせします。(黒瀬)

◆講演とパネルディスカッション

大規模災害と地域防災・減災・ボランティア
～2018年西日本豪雨被害の倉敷市真備町の事例～

講師：岡山県倉敷市社会福祉協議会 大西龍雄氏

日時：2024年1月13日(土)13:30～16:00

場所：鎌倉市福祉センター 第1・2会議室

定員：100名(手話通訳、要約筆記あり)無料

申込：鎌倉市社会福祉協議会(12/14まで)

協働事業推進部会報告

(11月16日 於：NPOセンター鎌倉)

今年度募集されたエール事業の結果が鎌倉市HPで公表されました。

[鎌倉市／つながる鎌倉エール事業公開プレゼンテーション結果と事業報告について \(city.kamakura.kanagawa.jp\)](https://city.kamakura.kanagawa.jp/)

当部会は今後、私たち自身が登録グループの活動を知ることと、グループ同士の交流を促すことを中心に活動していく予定です。

TOTOMO活動日誌 (9/28～11/29)

9/29	子育てサロンぽっけおはなし会	11/13	間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会臨時例会
10/2	UniLeaf (ユニリーフ) お手伝い	11/15	多摩市中央図書館見学会
10/4	第2回間島夫妻ゆかりの地を巡る	11/16	第二中学校おはなし講座
10/7	松坡文庫研究会第6回講演会参加	11/16	おはなしひろくせん勉強会
10/12	UniLeaf (ユニリーフ) 作業会参加	11/16	協働事業推進部会出席
10/12	ファンタスティック☆ライブ-実行委員会出席	11/16, 17	全国図書館大会参加
10/17	「新しい図書館を想像する」参加	11/21	市街地整備課と勉強会
10/19	ボランティア連絡協議会委員会出席	11/22	間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会臨時例会
10/19	おはなしひろくせん勉強会	11/24	読書会
10/21	図書館を語ろう! & TOTOMOのお宝展	11/25	学習会「市民生活とまちづくりの視点から見る公共施設再編計画」参加
10/24	図書館総合展参加		
10/25	間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会臨時例会	11/29	2023年度第2回鎌倉市図書館協議会参加
10/26	市街地整備課によるヒアリング出席	11/29	間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会臨時例会
10/26	市長・教育長からの回答書受け取り		
11/1	間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会臨時例会	10/12、11/9	ボランティア連絡協議会役員会出席
11/2	UniLeaf (ユニリーフ) お手伝い		ロビー活動 随時
11/9	NPOフェスティバル説明会出席		臨時打ち合わせ1回 (10/17)
11/13	UniLeaf (ユニリーフ) 作業会参加		定例会8回 (10/4, 11, 18, 25, 11/1, 8, 22, 29)



今年もあとひと月となりました。今年度もTOTOMOの活動にご協力いただきありがとうございました。来年がより良い年となりますように。

第26回 2023年度会員総会

日 時：1月28日（日）10時～12時 場 所：鎌倉市中央図書館3階多目的室
 今までの活動を振り返り、今後の活動につなげるために今年度も会員総会を行います。
 詳しいご案内は、次号に添付する総会資料をご参照ください。
 お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX 0467-22-8545）まで。

おはなしひこうせん勉強会

日 時：12月21日（木）10時～12時 場 所：福祉センター
 テーマ：ファンタスティック☆ライブラリーについての話し合いと、各自が決めたテーマに沿った本の紹介などをする予定です。
 お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX 0467-22-8545）まで。

読書会

日 時：1月26日（金）11時～12時半 場 所：NPOセンター鎌倉
 テーマ本：内山節著『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』（講談社現代新書）、東直子著『とりつくしま』（ちくま文庫）です。皆さまのご参加お待ちしております。
 お問い合わせは、杉崎（TEL/FAX 0467-41-4956）まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日 時：12月6日（水）13時半～16時半 場 所：NPOセンター鎌倉
 お問い合わせは、鈴木（TEL 090-4728-5242）まで。

第25回かまくら市民活動フェスティバル

日 時：12月2日（土）・3日（日）10時～16時 場 所：鎌倉生涯学習センター
 今年のフェスティバルは、「いつものコトをもしものトキに」と題して防災をテーマに行われます。TOTOMOは、パネル展示とひこうせんによるおはなし会で参加します。
 お問い合わせは、NPOセンター鎌倉（TEL 0467-60-4555）まで。

※会計から・・・年度末が近づいています。お立替いただいた分の精算が済んでいない方は、お早めに杉崎（TEL/FAX：0467-41-4956）まで、ご連絡ください。よろしくお願いします。

★図書館友の会全国連絡会

11月16～17日、岩手県盛岡市で行われた全国図書館大会が無事終了しました。図友連は第14分科会を主催しました。（前号で15分科会とお知らせしました。お詫びして訂正します）

お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX：0467-45-5731）まで。

編集後記 * * * * *

☆25周年を迎えたTOTOMOでは、「新しい図書館」を考えるために連続講座や図書館見学、ロビー活動など一年かけて行いました。会報へのご意見ご感想をぜひお寄せください。（A.S）
 ☆今年も一年間ご愛読ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。（M.S）



題字・巻末カット：小島寅雄

2023年11月29日発行

図書館とともだち・鎌倉（代表：水岡やす子）編集：阿曾・黒瀬・杉崎・斉木

事務局：〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34（黒瀬）TEL/FAX 0467-22-8545

HP：<http://totomo.sakura.ne.jp> E-mail：toshokantomodachi@gmail.com

